

## 平成28年度経営計画の評価

千葉県信用保証協会は、公的な「保証機関」として中小企業者の資金調達の円滑化を図り、中小企業者の健全な育成と地域経済の発展に貢献して参りました。

今般、平成28年度の年度経営計画に対する実績評価を行いましたので、以下のとおり公表いたします。

なお、実績評価に当たりましては、手島英男公認会計士、宮本勇人弁護士、有馬和子臨床心理士により構成される「外部評価委員会」の意見・アドバイスをいただいております。

### 1. 業務環境

#### (1) 地域経済および千葉県内企業の動向

中小企業の景況判断BSIは、全規模・全産業で上期は「下降」超幅が縮小し、下期は第3四半期こそ、「下降」超幅が拡大も、通年での「下降」超幅は大幅な縮小をしています。

#### (2) 中小企業向け融資の動向

中小企業の金融機関の融資態度判断BSIは、全規模・全産業で上期は「緩やか」超幅が縮小も、下期からは拡大に転じており、第3四半期から第4四半期に掛けて、「緩やか」超幅の拡大が続いています。

#### (3) 県内中小企業の資金繰り状況

中小企業の資金繰り判断BSIは、全規模・全産業で第3四半期までは「悪化」超幅が拡大も、第4四半期では「悪化」超幅が縮小に転じています。

#### (4) 県内中小企業の設備投資状況

中小企業の設備投資計画額は、全規模・全産業で前年同期比0.5%の増加見込みとなっています。

#### (5) 県内の雇用情勢

平成28年度の中小企業の従業員数判断BSIは、全規模・全産業で「不足気味」超幅が拡大しました。

以上 財務省関東財務局千葉事務所 法人企業景気予測調査／千葉県分より

## 2. 事業概況

◎保証部門では、金利水準の低下に伴う保証料の割高感等、協会を取巻く環境が変化したことから保証承諾、保証債務残高ともに対計画比、対前年実績比で減少となりましたが、顧客のライフステージに応じた支援の充実化や、地域活性化に向けた商品拡充と推進を図ることにより、県内中小企業・小規模事業者に対し、円滑な金融支援が行えたものと評価しています。

◎期中管理部門では、代位弁済が対計画比、対前年実績比で増加となりましたが、引続き落ち着いた水準で推移しています。これは、政府により実施された「中小企業金融円滑化法の期限到来に当たって講ずる総合的な対策」等の効果に加え、企業サポート室による積極的な経営支援を行った結果であるものと評価しています。

◎回収部門では、実際回収が対計画比、対前年実績比で減少となりました。代位弁済が低水準であることや、無担保、第三者保証人が無い債権の増加により、回収環境が厳しい状況にあることが要因と考えられます。回収は協会の収支に与える影響も大きいことから、引続き努力していく必要があると認識しています。

(単位：百万円、%)

保証～回収業務	平成 28 年度計画	平成 28 年度実績		
	金額	金額	対計画比	対前年実績比
保証承諾	516,920	483,770	93.6	92.1
保証債務残高	1,028,460	1,017,259	98.9	93.8
保証債務平均残高	1,055,293	1,045,211	99.0	95.4
代位弁済	17,435	18,082	103.7	103.1
実際回収	5,174	4,727	91.4	86.6

### 3. 決算概要

平成28年度の決算概要（収支計算書）は以下のとおりです。

経常収入	13,615 百万円
経常支出	8,570 百万円
経常収支差額	5,045 百万円
経常外収入	23,250 百万円
経常外支出	24,135 百万円
経常外収支差額	▲885 百万円
制度改革促進基金取崩額	0 百万円
当期収支差額	4,160 百万円

- ・ 経常収入は、保証料収入の減少により、前年度に比べて855百万円の減少となりました。
- ・ 経常支出は、責任共有負担金納付金が減少に転じたため、前年度に比べて441百万円の減少となりました。
- ・ 経常外収支差額は、前年度▲584百万円から、301百万円の減少となりました。
- ・ 当期収支差額は4,160百万円となりました。この収支差額の処理については、基金準備金に2,080百万円を、収支差額変動準備金に2,080百万円をそれぞれ繰り入れました。

#### 4. 重点課題への取組状況

##### (1) 顧客ニーズの把握

保証部門では金融機関・商工団体への訪問、金融機関向け説明会の開催により、事業者の現状把握や顧客ニーズの情報収集等に積極的に取組ました。

期中支援部門では、当協会が事務局として中小企業支援ネットワーク会議や関係機関との情報交換会議を実施し、経営支援、事業再生、創業支援について円滑な業務運営を実施しました。

##### (2) 顧客サービスの充実

保証部門では創業セミナー、創業スクールについて、休日開催やテーマ別に受講者の自由選択制とし、利便性が向上したことから受講者増加につながり、積極的な創業支援ができました。また、関係機関からの声を反映させた制度紹介パンフレットの製作や新制度の創設等により、知名度アップや連携強化に努めました。期中支援部門では、企業担当制に基づき積極的な企業訪問、金融機関訪問により、必要なソリューションを見極め、専門家派遣によるワンポイントアドバイスや経営改善計画策定支援等のきめ細かい支援を行いました。

##### (3) コーポレートガバナンスの強化

定期的な内部会議の開催により、協会の経営方針、経営理念等の基本方針を職員全員が理解し、意識の統一を図ることができました。

##### (4) 経営の健全化

回収部門では、社内弁護士による法律相談や早期事件申立等により求償権回収の最大化に努めました。

##### (5) 経営の効率化

定例会議等を通じてサービスとの連携強化を図り、求償権回収の促進を行いました。

##### (6) 能力開発・人材育成への取組

全国信用保証協会連合会等が主催する各種研修会・講習会に積極的に参加し、能力開発・人材育成に取組ました。また、異業種派遣研修として、外部機関への派遣を実施しました。

(7) 地域経済活性化への取組

その他間接部門では、地方創生に貢献するため、新制度の創設および普及に努めました。

5. 外部評価委員会の意見

手島英男公認会計士、宮本勇人弁護士、有馬和子臨床心理士により構成される「外部評価委員会」の意見・アドバイスは以下のとおりです。

(1) 業務実績について

**【保証部門】**

- ・顧客ニーズの把握に向けた金融機関や商工団体への訪問は効果的な情報収集と関係深化の観点から評価できる。
- ・創業セミナーやスクールの開催等の支援活動により、顧客にとって身近な存在となることは重要であり、今後も継続してほしい。

**【期中管理部門】**

- ・事業再生への貢献度が評価され、関係機関から表彰を受けたことは真摯に取り組んできた成果として評価できる。
- ・事業承継や海外展開等、専門性が問われる分野において、相談機関となることは顧客にとって心強いものであり、意義深い。
- ・代位弁済が増加傾向にあるため、今後の推移に注意する必要がある。

**【回収部門】**

- ・社内弁護士を活用した法律相談や事件申立て等、求償権回収最大化に向けた取組が行われているが、回収額が伸び悩んでいることが懸念される。

**【その他間接部門】**

- ・顧客の声を反映させたパンフレットの製作や制度創設・見直しを実施してきたことは顧客満足度の向上につながるものであり、評価できる。
- ・LINE@や無料情報誌、デジタルサイネージ広告等、認知度向上に向けた広告宣伝活動に創意工夫が見られる。

(2) コンプライアンス体制および運営状況について

- ・研修等による知識と意識の向上と真摯な対応を心掛けることで健全経営を目指して欲しい。

(3) 総括

- ・収支も安定しており、経営の健全性を維持していることは評価できる。
- ・顧客の声を反映させた取組はサービス充実の観点からも今後も継続することが大事である。
- ・経営環境の潮目が変わり始めており、今までの業務のやり方を見直す時期を迎えている。
- ・顧客との距離を縮めるために行ってきた経営支援活動を継続し、相談し易い環境を整えることが肝要である。
- ・厳しい経営環境が続くことになるが、目先の目標にとらわれず、堅実に歩むことが重要である。